令和5年度　すくすくウォッチ結果考察【概要版】

＜すくすくウォッチとは＞
令和3年度から始まった大阪府独自の取組み。今年度は4月21日（金）に実施。子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を活用させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とする。その目的を達成するため、子ども、家庭、学校は、本テストを実施するとともに、テスト及びアンケートの結果や分析等から、以下の取組みの充実に努める。

□学校…教員が、子ども一人ひとりの学びに対する思いや強み弱みを知り、一人ひとりの実態に合わせた指導を行う。
□児童…自分の学びをふりかえり自らの強みや弱みなどを知って新たな目標をたて、強みをのばすことや課題を克服すること等に取り組む。
□家庭…こどもの伸びや課題を知り、子どもを励ます等によって、子どもを支援する。

すくすくウォッチから確認できた成果と課題

小学校5年生	河内長野市	対府差	府平均
国語	79.6	1.3	78.3
算数	37.6	0.1	37.5
理科	62.2	-0.1	62.3
わくわく問題	67.6	0.5	67.1

小学校6年生	河内長野	対府差	府平均
理科	74.2	1.1	73.1
わくわく問題	78.4	2.8	75.6

成果について
☆基礎的・基本的な学力の定着が見られた。
☆関連付けて考えたりまとめる問題についてはよくできていた。

課題について
☆自分で考えたことを伝える。
☆理由や根拠を明確にして伝える。
☆社会事象を自分ごととして捉え自分に何ができるのかを考える。

課題解決に向けた今後の市としての取組み

☆目的に応じて、自分の考えをまとめ表現する
① すべての教科で文章を書く取組みを実施
② 資料から必要な情報を選び、書き表し方を工夫する場面の設定
③ 自分のもっている知識や経験と結び付けることで、考えを広げたり深めたりする学習活動の設定

☆教科横断的な視点で学習を成り立たせていく授業づくり
① 課題解決に向けて、自分で考え主体的に取り組める授業の実践
② 生活と結び付けて考えたり、活用できる場面の設定
③ 学ぶ価値が実感できる場面の設定

☆ICT機器を活用した学習活動の充実
① ロイロノートで他者の意見と比較したり、様々な考えを交流し、自分の考えを再構築したりする場面の設定
② シンキングツールを用いて考えを整理し、構成を意識 し、表現を工夫する場面の設定

☆学校全体で組織的に取組む授業改善
① 学力向上に関する研究授業の実施
② 目の前の児童生徒の課題に正対した取組み
③ 教育活動全体で言語活動の充実

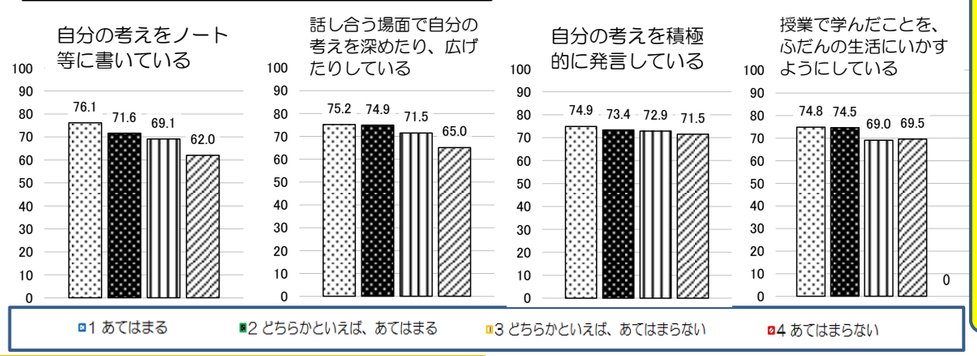
わくわく問題（教科横断的問題）について

＜わくわく問題とは＞
○ 教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題（SDGs、プログラミング的思考）等をテーマにした問題
○ 文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題

＜わくわく問題の観点＞
○ 子どもが、多様な他者と協働し、探求的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力として、以下の5 つの観点に整理される。

A：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる
B：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。
C：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。
D：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。
E：興味・関心のある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える。

わくわく問題　×　アンケート　クロス集計から



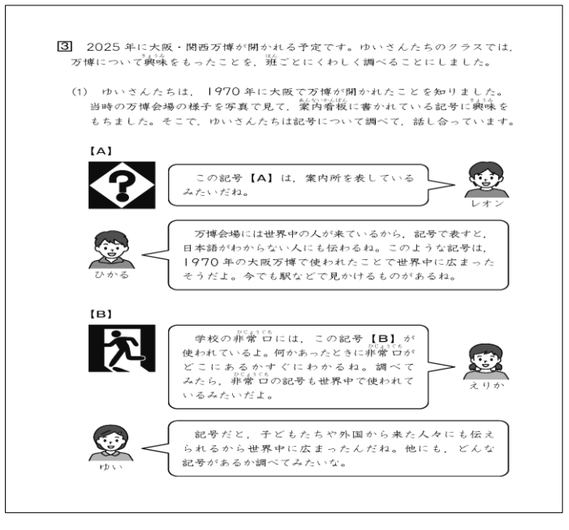
自分の考えをノート等に書いたり、話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたり、積極的に考えを発言したりしている児童の正答率が高い。また、授業で学んだことをふだんの生活にいかすようにしている児童も正答率が高いことがうかがえる。

わくわく問題（教科横断的問題）の状況　【強み】

下記の３（１）について府より正答が高かった。本問題については、普段の授業の中で複数の資料から目的に応じた内容を関連付けて、それをもとに論理的に考え、自分の考えをまとめ伝える学習への取組みが進んでいると考えられる。わくわく問題の「内容を関連付ける力」に関するA～Dの観点別ごとの平均正答率を見ても、昨年度同様、すべての観点において府の平均正答率を上回っていた。

○問題の概要　３（１）
大阪万博から世界に広まった「ピストグラム」を題材とし、ピストグラムがどのようなものかを知るとともに、資料を分類・整理することを、会話と資料を関連付けること、相手にわかりやすく訴えるための工夫を考え表現することを目的とした問題。
○問題の観点　B　D
○問題形式　記述式

正答率	市平均	対府差	府平均
5年生	34.6	1.6	33
6年生	47.1	3.9	43.2


[3]　2025 年に大阪・関西万博が開かれる予定です。ゆいさんたちのクラスでは，万博について興味をもったことを，班ごとにくわしく調べることにしました。

(1)　ゆいさんたちは，1970 年に大阪で万博が開かれたことを知りました。当時の万博会場の様子を写真で見て，案内看板に書かれている記号に興味をもちました。そこで，ゆいさんたちは記号について調べて，話し合っています。

【A】
この記号【A】は，案内所を表しているみたいだね。（レオン）
万博会場には世界中の人が来ているから，記号で表すと，日本語がわからない人にも伝わるね。このような記号は，1970 年の大阪万博で使われたことで世界中に広まったそうだよ。今でも駅などで見かけるものがあるね。（ひかる）

【B】
学校の非常口には，この記号【B】が使われている。何かあったときに非常口がどこにあるかすぐにわかるね。調べてみたら，非常口の記号も世界中で使われているみたいだよ。（えりか）
記号だと，子どもたちや外国から来た人々にも伝えられるから世界中に広まったんだね。他にも，どんな記号があるか調べてみたいな。（ゆい）

ゆいさんたちは，現在使われている記号を調べて，集めました。

【ゆいさんたちが集めた記号】
博物館／美術館　カフェ　コンビニエンスストア　駅
城　バス乗り場　空港　寺／神社　レストラン

いろいろな記号があるんだね。たくさんあるから，記号を種類ごとに整理してみようよ。（レオン）
記号を「どのようなときに役立つか」で整理すると，次の３つに分けられそうだよ。（ゆい）

「どのようなときに役立つか」
①　見学するとき
②　移動するとき
③　［　　］とき

問い　【ゆいさんたちが集めた記号】を種類ごとに整理した場合，「どのようなときに役立つか」の③［　　］の中に入るふさわしい言葉を書きましょう。

わくわく問題（教科横断的問題）の状況　【課題】

図や表・グラフ・短い文章・会話文等の内容を関連付けて正しくとらえる問題について、今回は4問出題されたが、左記の3（1）については府より正答率が高かったが、下記の２（３）については５年生が府より正答率が低かった。特に正答率の低かった本問題については、自分で考えたことを理由や根拠を明確にして伝える内容であることが１つの要因と考えられる。この課題解決に向けて、児童が授業の中で条件や目的に応じて説明する場面や社会事象を自分ごととして捉え何ができるのかを考える時間をこれまで以上に設ける必要がある。

○問題の概要　２（３）
ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットやAIに関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育むことを目的とした問題。社会の中の様々な問題に関心を持ち、自分のこととして捉え、何ができるのかを考える契機としてもらいたい。
○問題の観点　B　C　D
○問題形式　記述式

正答率	市平均	対府差	府平均
5年生	15.4	-2.9	18.3
6年生	31.6	3.7	27.9

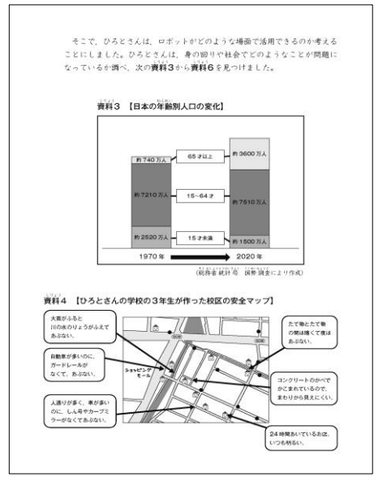
(3)　ひろとさんはロボット掃除機以外のロボットについても調べてみたところ，資料2を見つけました。

資料2
日本のロボットは 1980 年代以降，自動車や電気・電子産業などの製造現場を中心に急激に広がりました。近年では人工知能（AI）と呼ばれる技術やインターネット技術の発展によって，今まで人がしていた複雑な作業をロボットに行わせることができるようになってきています。

災害救援ロボット
災害があったとき，人が入れない危険な場所を，人に代わって探索し，中の様子を調べたり，助けを求めている人を見つけたりします。

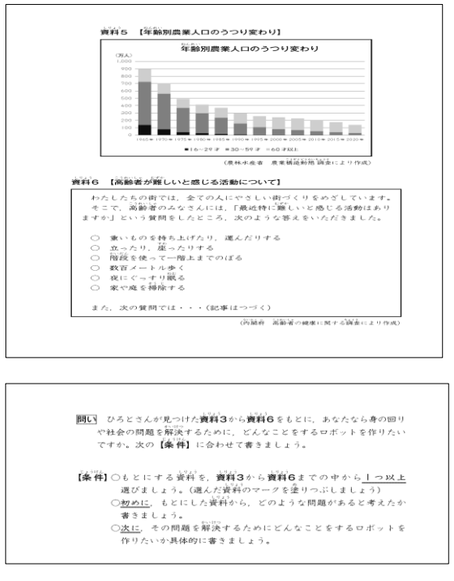
商品を並べるロボット
コンビニエンスストアでは，商品を並べる作業をロボットが手伝っています。空いている棚を探して，飲み物を置いていきます。

ロボットを使うと，ニュースなどで取り上げられているいろいろな問題を解決できるかもしれないね。（ひろと）


そこで，ひろとさんは，ロボットがどのような場面で活用できるのか考えることにしました。ひろとさんは，身の回りや社会でどのようなことが問題になっているか調べ，次の資料3から資料6を見つけました。

資料3　【日本の年齢別人口の変化】
約740万人　65才以上　約3600万人
約7210万人　15～64才　約7510万人
約2520万人　15才未満　約1500万人
1970年　2020年
（総務省統計局　国勢調査により作成）

資料4　【ひろとさんの学校の3年生が作った校区の安全マップ】
大雨がふると川の水のようすがふえてあぶない。
自動車が多いので、カーミラーもなくて、あぶない。
人通りが多く、車が多いので、しゃ断機やカーブミラーがなくてあぶない。
シャッピングモール
公園
たて物とたて物の間は狭くて車はあぶない。
コンクリートのかべでかこまれているので、まわりから見えにくい。
24時間あいているお店、いつも明るい。


資料5　【年齢別農業人口のうつり変わり】
年齢別農業人口のうつり変わり
（万人）
■16～24才　■30～39才　■40才以上
（農林水産省　農業構造動態調査により作成）

資料6　【高齢者が難しいと感じる活動について】
わたしたちの街では，全ての人にやさしい街づくりをめざしています。そこで，高齢者のみなさんには，下線部に難しいと感じる活動はありますか」という質問をしたところ，次のような答えをいただきました。
○　重いものを持ち上げたり，運んだりする
○　立ったり，座ったりする
○　階段を使って一階上までのぼる
○　数百メートル歩く
○　夜にぐっすり眠る
○　家や庭を掃除する
また，次の質問では・・・（記事はつづく）
（内閣府　高齢者の健康に関する調査により作成）

問い　ひろとさんが見つけた資料3から資料6をもとに，あなたなら身の回りや社会の問題を解決するために，どんなことをするロボットを作りたいですか。次の【条件】に合わせて書きましょう。

【条件】○もとにする資料を，資料3から資料6までの中から１つ以上選びましょう。（選んだ資料のマークを塗りつぶしましょう）
○まずは，もとにした資料から，どのような問題があると考えたかを書きましょう。
○次に，その問題を解決するためにどんなことをするロボットを作りたいか具体的に書きましょう。